

日本看護歴史学会 会報

日本看護歴史学会
第 17 号
1994年3月5日

あえて看護史研究の

あり方に苦言を呈す

亀山 美知子

近年の看護界は研究の大流行の感がある。看護史に関する研究も某雑誌などには頻りに掲載されているし、いくつかの学会でも研究発表の場が設けられている。これらの傾向は、看護史に関心を寄せる者にとっては喜ぶべきことといえるが、反面、一抹の危惧を抱く場合もある。すなわち、編集者は研究者とは限らない。従って、執筆者の論文等について十分な審査は期待できない。看護史に関する既発表論文等の確認は難しい。また、時として専門誌の域を離れ、単なる商業雑誌化していると思えるものさえある。また、看護関係の学会で取り上げられる看護史に

関しても、問題なしとはいえない

のではなからうか。趣味としての歴史なのか、研究としての歴史なのかは、選考の過程によって決まる。

日本看護歴史学会は、当初よりなだらかな会として歩みはじめたが、すでに今年で八年目を迎える。歴史が好きであるとか、関心をもっている、等々の動機で入会された方も多し、何らかの歴史をまとめるために入会された方もあろう。様々な目的で入会された方が歴史に興味をもち続けられることは大切である。

しかし、本会は看護史の専門の学会としての方向を目指すものであることも事実である。ただ、だからといって、所謂、権威主義的

な体質やムードとは無縁の活動を続けて来たつもりであるし、その運営方式については多くの御支持を得ていると信じる。要するに人的交流は大切に、しかし研究内容は充実したものに、との思いを各人がもっているからである。

さて、このたび学会誌の査読規程の見直しが行なわれた。査読の目的は、勿論、歴史論文としての基本をふまえ、その価値を高めることにある。それらについて要約すると(1)論文の形式上の問題、(2)論文の内容ということに大別できる。

(1)については、歴史は単なる記述ではなく、叙述であることを思い出して頂ければ納得できることである。すなわち、単なる事実の羅列ではなく、自らの歴史観に基づいた叙述が求められるものである、と認識してもらいたい。近年、所謂、総論的な研究指導の弊害によって「〇〇の視点から」等といった記述をみかけるが、そのような表現をあえてする必要はない。論文に一貫性があれば、読み手には十分把握出来るものであるはずだからである。

また、叙述である以上は初步的な文章構成、誤字、脱字等については十分、考慮すべきものである。

し、最も大切なことは註釈が適切に書かれているかである。註釈や引用、参考文献は大切な読者へのメッセージであり、自らの研究の過程を明らかにするものであることを認識しなければならない。

参考文献と研究文献の区別も読み手にとって判別できることも大切であろう。

(2)については、論文構成(展開)、十分に先行研究(研究史)をふまえているか、内容に独創性や一貫性(前出)がみられるか、という点である。他者の論述に依拠するだけでは当然ながら、自らの視座を明らかに出来ない。また、専門用語についても熟知する必要はあるが、看護史に関してはまだ確立をみない。従って手軽な『日本史辞典』等を利用することも基礎的な準備になるだろう。

以上が査読の主要事項であるが、査読の目的は単に論文を選別することではなく、書き手と読み手が共に成長することである。

そのためにも、双方は歴史論文、専門書に常日頃から馴れ親しむ必要がある。看護の視点のみにこだわるよりは、歴史研究の基礎を身につけた上で、独自の見解・解釈を可能にするよう心がけたいものである。

第八回日本看護歴史学会大会予告

「今、あらためて、看護教育の歴史を考える」

現在、看護教育の歴史は一大転換期にあるといえます。その質的・量的変節期にあつて、本会はある看護教育の歴史をふり返るとともに、それぞれの時代に果たした看護教育の目的・役割等々を検証するとともに、今後の看護教育への展望も模索したいと考え、メインテーマを決定しました。

また、このテーマのため、日本で最初の近代的看護教育発祥の地の一つである旧帝大医科大学（現東大医学部）の構内を会場に決定いたしました。今回は日程が例年の土・日曜日ではなくりましたが、奮って御参加下さい。

△主要プログラム▽

◆先達に聞く「放談会」

「今、あらためて看護教育の歴史をふりかえる」

発言者

吉田時子氏（聖路加出身者）

國分アイ氏（日赤出身者）

鈴木一子氏（東大病院出身者）

いづれも、日本の伝統的な看護教育施設の御出身です。お三方の出身校の歴史とともに、それぞれの歩まれた中で得られた貴重な感懐とともに、今後の看護教育への展望や提言を期待したいものです。

◆会員による研究発表

応募切りは六月末日予定

◆分科会の開催

分科会の話題提供者を募集します。（四頁参照）

◆懇親会（昼食会を予定）

※詳しくは会報第一八号に発表します。乞御期待！

- ◆開催期日
本年八月一九（金）、二〇日（土）
- ◆会場
東京大学山上会館
東京都文京区本郷七-3-1

- ◆参加費（両日有効）
会員 二千元
非会員 三千元

日本看護歴史学会第7回大会 収支決算報告書

<収入>	
大会参加費	308,000
会員	2,000×52名=104,000
非会員	3,000×68名=204,000
サンドイッチパーティ代金	74,000
会員	1,000×39=39,000
非会員	1,000×35=35,000
大会総会費	50,000
合計	432,000

<支出>	
会場費	35,000
講師謝金・お車代（2名分）	135,000
サンドイッチパーティ代金	56,537
事務・通信・雑費	6,650
合計	233,187

<差し引き残高>
432,000 - 233,187 = 198,813

<累積残高>	
前年度までの繰り越し金	342,020
本年度残高	198,813
累積残高	540,833

（次年度大会費用へ繰り越し）

（会計 依田和美、大平政子）

雑感「田淵まさ代と

井上澄恵のこと」

高田節子

岡山で住むようになってからと

いうもの岡山と書いてあるとすぐ気になるものである。「岡山県出身日赤看護婦長田淵まさ代（一八八五〜一九七六）大正一〇年ロンドンへ留学」エー岡山！一段と活字が大きくなって筆者をとらえた。

